

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を柱としホームでの目標を掲げている。毎月の部会、日々の申し送りの場を通してサービスの向上に繋がられるよう努めている。	複合施設としての理念、「あい愛塩尻の暮らし」の5つの柱を基に年度ごとのホーム目標を立てている。今年度は「利用者の役割、言葉の傾聴、安心して生活できる」をキーワードに目標を作り、ホールに掲げている。日々の申し送りや部会などで確認し、理念にそぐわない言動やサービス低下につながる行動が見られたときは、職員自身で考えてもらうように投げ掛け、その結果を受けて管理者が指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	小学校が近くにあるので交流を定期的に行った。地域のボランティア団体の方が定期的に来訪し交流している。	複合施設として地元自治会に加入し、区費も納めている。地域との交流も盛んで5月には地区の祭りの舞台がホームへ来てお囃子を披露したり、近くの小学校4年生や保育園児との交流、夏休み中の児童館利用の子供達とも交流している。地区の方々が敷地内にあるケアガーデンの畑おこしをしたり、ゲートボール場を管理したりと結びつきも強い。また書道、男性合唱団、お話の会などのボランティアも来訪し、毎月、訪問マッサージの先生がボランティアとして転倒予防体操の指導もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に、区長、民生委員に参加いただいている。ご意見、ホームからの情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回のペースで開催できている。会議では運営状況、利用者の様子を報告し、出席者より意見を聞くことが出来ている。	年6回、家族、区長、民生委員、市長寿課職員、知見者、スタッフが参加し、活動状況や行事報告、事故報告、意見交換などを行っている。直近では地区のお祭りに合わせ運営推進会議を開催し参加者に様子を見ていただき、普段の利用者の雰囲気を知っていただく機会とした。会議では家族や地域の方から意見が出され、その都度検討し、ホームの運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	三か月に一度介護相談員が来訪し、利用者及び職員との交流が出来ている。管理者は月一度のケアマネ勉強会に参加している。	必要時、市の包括支援センターへ相談している。介護認定の更新調査は家族の予定に合わせてホームで行い、職員も立ち会い、ホームでの様子や身体状況などを伝えている。3か月に一度介護相談員が1~2名来訪し、利用者との交流の中から様々な情報を得て、職員に伝えていただいている。また、市のケアマネジャー会議に可能な限り参加し情報交換をしており、他事業所との連携で当ホームへの入居が決まった事例もあり利用者が慣れ親しんだ地域で過ごすことができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置されていて、全体会議を利用し勉強会をおこなった。現在は、ホーム内では拘束を必要とする事例はない。	重要事項説明書や運営規定に身体拘束禁止について規定し、複合施設内にも委員会が設置されている。また、複合施設全体会議でも身体拘束について取り上げ、必要時にはホーム部会でも取り上げ、人権意識を高めている。見守りを主に利用者に寄り添うようにし心の安定を図ることで穏やかに過ごしていただけるようにしている。	

グループホームあい愛塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加はしていないが、部会で取り上げて、言葉の虐待等見過ごされないように防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がいるため身近に学ぶ機会がある。管理者からは、職員に制度の流れ活用時には、事例を発信するように心がけている。研修会等の参加が出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書類(利用料、重要事項)の説明を行い同意、理解をいただいている。法改正による料金改正等については、書面にて説明しご理解、承諾をいただくように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に、家族全員に通知をし参加していただいている。ご意見等いただき反映させている。	利用者の半数以上の方が意見や要望を表出することが出来るのでその都度傾聴し、思いに沿えるようにしている。家族からは面会時などに意見や要望を聴き、運営に反映させるように努めている。ご家族が高齢化している中で運営推進会議へ可能な限り参加して頂くように呼び掛けたり、毎月の「あい愛通信」や3ヶ月に1回郵送する居室担当者と管理者からの手紙でコミュニケーションも図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、全体会議、GH部会を実施している。全体会議では、代表者も参加するため意見交換も出来ている。部会では、職員同士意見や改善事項など実践できている。管理者、リーダーは、リーダー会議に参加している。	毎月、複合施設全体の会議、リーダー会議、ホーム部会を開催し、運営に関する伝達や意見交換、利用者に関するケアカンファレンスを行っている。勤務などで参加できない職員には連絡ノートを用い周知している。今年度に入り職員個別にアンケートを取り思いを吸い上げ、課題があれば検討するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、日々職員とのコミュニケーションをとるように心がけている。必要に応じて、施設長に報告、面接を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年度は、外部への研修会への参加が少なかった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回の市主催のケアマネ勉強会に参加し、情報交換を行っている。機会があれば、他GHケアマネさんとの情報交換を行った。		

グループホームあい愛塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅を訪問し、本人や家族からの悩み、不安、今までの生活歴を聞くこと、初期段階には担当のケアマネからの情報を得て入居後の安心へと繋がるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、家族の思い、要望を聞くようにしている。入居後は、面会時には職員からも挨拶するよう心掛けて信頼関係を築けるに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のご本人、ご家族との面談時に得た情報を元に、希望の支援、必要なサービスを入居時から提供できるように努めている。また、サービス開始時は意思確認を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時には、他利用者の状態を皆さんに話すことで、病気の事、性格など理解してもらうことが出来る。利用者同士の関係にも変化がみられることもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3か月に一度生活の様子をお手紙でお伝えしている。ご家族が来訪時には職員が様子をお伝えし、時にはご家族からのご意見や要望を聞くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設のホームに身内がいる方は、一日の中で一緒に過ごす時間を設けるなど対応を行っている。また、週末には外泊をされ家族と過ごされる方もいる。	近所の方や友人と面会する方、併設の特定施設に入居している身内に会いに行ったりその方が面会に来られたりする利用者などがおり、ホームでは来訪しやすい環境づくりに努めている。また、馴染みの美容室へ出掛けたり、週末に家族の対応で受診したり、お祭りなどで外出・外泊する利用者もあり、在宅時の習慣や関係が継続できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ささいなトラブルは起きる。職員は利用者同士の関係を把握し、座席の配置に配慮するよう努めている。また穏やかに過ごせるような環境づくりに努めている。		

グループホームあい愛塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の有料老人ホームへの住み替えをされた方もいるため、顔なじみの職員との関係は断ち切らない支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ごとに担当職員を決めている。個人の思い、暮らしを把握するよう努めている。また職員間で情報を共有し個々の思いに沿えるような支援に努めている。	約半数の方が思いや意向を表出でき、日常的に食事や入浴などの希望がある。カップめんが食べたいとの希望があった時に複数用意し選択していただいたり、ケアガーデンで育てる野菜も選んでいただき、また、入浴拒否があった際には無理強いしないなど、問いかけをするような声掛けで利用者に選択していただく場面を作っている。思いや意向を表出できない方には表情、しぐさ、生活歴などから読み取り、その思いに沿うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの若き頃の生活の様子をお聞きする。また前サービスのケアマネから自宅での様子をお聞きするようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録を日々細かに記録されている。職員間で情報の共有を行い変化する状態に合わせた対応が出来る。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員が利用者を担当している。3～6か月ごとに支援内容のモニタリングを実施するように努めている。	職員が1～2名の利用者を担当し、6ヶ月から1年で計画を更新し、3ヶ月から6ヶ月でモニタリングをしている。ホーム部会でミニカンファレンスを随時行い、状態に変化があった場合には家族に連絡・相談し変更を掛けている。法人独自の取り組みとして利用者を深く理解するために介護計画と連動した個別援助計画を担当職員が作成するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護職員のみならず看護師、ケアマネ、主治医が同じ書面に記録できるようになっている。情報の共有ができ身体状態に変化があった場合でもすみやかな対応が可能である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体状態の変化に伴い、食事形態がミキサー食になられた方に対し、ご家族と相談の上有料老人ホームの食事を提供できる。		

グループホームあい愛塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺の散歩、近くのスーパーへ出かけている。希望により理容室へ出かけることもある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医について本人、ご家族に確認している。ホームの協力医に切り替えられる方もいる。時には、今までのかかりつけ医に継続されこともある。受診には、ケアマネが同行するように対応している。また、緊急で受診が必要な場合は主治医に相談、受診の対応を行っている。	利用前のかかりつけ医を継続している方が若干名おり、家族や管理者が受診に同行している。他の方はホーム協力医による週1回の往診を受け、中には認知症専門医へ受診される利用者も数名いる。受診の際には管理者が窓口になり家族に連絡、報告するようにしている。また特定施設の看護師が朝礼と夕礼に参加し、その都度医療的指示をいただいている。現在、歯科についても職員が受診の対応を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師と医療連携体制を整えている。朝・夕の申し送りに参加し情報の共有をはかる対応を整えている。夜間はオンコール体制を継続して。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、週一回の面会を心がけ病院関係者より利用者の情報を把握し家族を含め今後の生活、支援について相談を行うように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が進んできている中、実際に看取り介護となり家族、主治医、職員のチームでの支援が行われ最後まで施設で過ごされ、本人、家族の思いに沿える支援が実践できた。	5月に1名の方の看取りを行った。事前に看取りの指針の説明と同意書の確認をし、医師、看護師と連携を取りながら、こまめに家族への連絡を行い進めた。職員が落ち着いて対応できるようにとホーム部会でフローチャートを使用し確認し、チームとして看取り支援を行うことができたという。今回は使用しなかったが、ゲストルームが完備されており、家族が泊まり込みでいつでも使用できる状態となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成しているが、訓練は実践できていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施。防災に備え非常用食品、ヘルメット等準備されている。	年2回、消防署立会いの下実施し、複合施設全員参加の訓練とホーム独自型の訓練を行っている。民生委員から夜間想定訓練の実施に関する提案もあり、現在防災委員会で検討中である。またホームの避難訓練に参加していただけるように区長や民生委員にも相談を掛けている。介護用品や食料品の備蓄も5日分あり、万が一の時は夜間、特定施設と合わせ夜勤者及び宿直者合わせて4名体制になるため連携を取ることができる。	

グループホームあい愛塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別ケアを目標に、一人ひとりに合わせた会話心がけ、言葉がけに注意し思いや希望を引き出せるように実践している。	人権や接遇に関してホーム部会で学習し意識を高めたり、スタッフの言動で利用者から訴えがあった時は部会にて皆で検討し振り返りをするようにしている。スタッフは全員女性の為、同性介護に対する訴えはない。複合施設理念の一つ「一人一人が個人として理解され受け入れられる暮らし」やホーム年度目標を念頭に置きながらその都度振り返り、実践に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとり生活のスタイルが違うため、過ごし方や洋服選びなど利用者が決定できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のやりたい趣味を行える環境づくりを心がけている。時にはやりかけのまま次の行動に行く事を嫌がる方には最後までやっていただくなど実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え時は、自分で選んでいただくようにしている。汚れてしまった時など小まめに着替えを行っている。希望により美容院にも出かける。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは職員が行うようになってきている。おやつ作りでは、時々一緒に行っている。一人ひとり嗜好も異なるので、希望を聞き対応してる。	殆どの方が自力で摂取できるが、日によって手順が分からず、介助を要する方もいる。利用者の高齢化や身体機能の低下などにより調理はスタッフが行うことが多くなってきているが、献立は利用者の希望を取り入れ、必要な方にはおかゆや刻みで提供している。季節に合わせ利用者と朴葉巻きなどのおやつ作りを行ったり、寿司バイキングやお弁当を買ってきて食べたり、交流を兼ねて特定施設の利用者と回転寿司へ外食に出かけるなど、食の楽しみを提供している。可能な方にはできる範囲で配膳、下膳、台拭き、後片付けなどを手伝っていただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の水分量、食事量の記録する。利用者の適量が把握出来るため、その方の適量で調整することができる。お茶の時間には、ジュースやコーヒーなど、希望を聞き提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行うように声掛けしている。入れ歯の方には、夕食後はポリドントの使用を促し清潔を保持できるよう支援を行っている。		

グループホームあい愛塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけている。排泄介助の必要な方には、適切な間隔で支援が行えている。排泄用品については、必要に応じて見直しを行うように努めている。	自立している方は半数以上おり、うち若干名の方が布パンツ使用である。他の方はリハビリパンツやオムツを使用している。尿意や便意があまりない方には排泄チェック表や仕草、表情を基にトイレへ誘導している。記録を基にカンファレンスし、排泄用品については家族に相談しながら見直しをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬による排便コントロールをしている利用者がほとんどで食事面からは、毎日乳製品、バナナ野菜ジュースなどを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	朝入浴の準備を一緒に行う時、入る順番の希望など聞くなどその方にあったタイミングで対応するよう努めている。	基本的には週2回であるが、希望があればそれ以上の入浴が可能となっている。殆どの方が見守りや一部介助を必要としており全介助の方も若干名いる。また、移乗や着脱に職員二人の介助が必要な方もいる。入浴順の希望を聞いたり、拒否される方は翌日に変更し無理強いをすることなく、利用者の思いを大切にしている。季節を感じられるような菖蒲湯やゆず湯、足浴なども行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間はソファでウトウトされている方がいたり、夜間はそれぞれのペースで休まれるようになってきている。現在は、眠剤を服用される方もいるが夜間は眠れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの状態に合わせて、薬を粉砕したり服薬ゼリーを活用して確実に飲んでいただけよう支援している。服薬の変更については、看護師と連携し薬の管理がスムーズに行えるようになってきている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりができる事が変わってきている。状態に合わせて個別での支援を行っている。今はカラオケが楽しめることが多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬の間はなかなか外出が出来なかった。春から秋にかけては、ケアガーデンに野菜、お花を育てている。近くのスーパーまで買い物に出かけることもある。	日常的には敷地内の散歩や近くのスーパーまで食材の買い出しに出掛けている。行事として空港や市内のスポットめぐり、お花見、外食ドライブなどを行い、利用者の気分転換に繋げている。外出以外では週1回、特定施設利用者と合同でカラオケやレクリエーションを行ったり、ホーム独自にレクリエーションを行うなど、日々の生活の中にメリハリをつけている。	

グループホームあい愛塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、数名の方がご家族の了解をもらい現金を持っているが、日常的に使用されることはほとんどない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族宛に手紙を書かれることもある。電話については、希望があればこちらからすることも。遠い親戚の方から電話がある場合もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は畳部屋であり押入れがある。フロアの壁面には季節の作品を飾っている。	居間兼食堂は広く、ソファが所々に配置され、畳の小上がりもあり、自由に過ごすことが出来るようになっている。壁面には行事の写真や利用者の作品が飾られている。トイレは4ヶ所あり、車椅子で楽に入ることが出来る。浴室は半埋め込み式の2方向から介助できる造りとなっている。ホームの入り口を出ると複合施設としての地域交流スペースがあり、様々な行事やレクリエーション、地域の人々との交流などに利用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには、いくつかのソファが配置されて自由に過ごせるようになっている。食堂での席の配置は、固定せず皆が気持ちよく過ごせるように対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が好きなポスターや塗り絵、書道の作品を壁に飾っている。お花を摘んでお部屋に飾ることもある。	エアコン、ベッド、押入れ、洗面台が完備され、畳部屋となっており、和風で落ち着く造りとなっている。持ち込みは自由でダンスやテレビなどが置かれている居室、行事の写真や自分で描いた塗り絵等が飾られている居室などがあり、一人ひとりの生活感が漂っていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札をつけ、電気のスイッチには目印をつける。自分でわかり自分でおこなえる。”自立”を支援、実践している。トイレ内に、わかりやすく壁紙を貼り気持ちよく過ごせるように工夫している。		